



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race	SUPER GT Rd.2 FUJI GT 500km RACE
Date	2014.05.03-04
Race Track	FUJI INTERNATIONAL SPEEDWAY
Team	OKINAWA IMP・RUNUP GT-R



500km の長丁場の荒れたレースを 16 位で完走

岡山の開幕戦から約1ヶ月のインターバルを挟んで迎えた第2戦 富士GT500km。今回のレースの特徴はいつもよりレース距離も長く、2回のピットが義務づけられていることです。そのため第3ドライバーの登録が可能となり、私たちのチームは藤田選手に加わってもらい3人で戦う事となりました。

2014.05.03 FREE PRACTICE (8位/24台中)

WEATHER : DRY

第2戦の舞台は開幕戦前にテストも行った、静岡県の富士スピードウェイとなります。このサーキットの特徴は約1,5キロにも及ぶ長いストレートで、私たちがドライブするGT-Rは最高速も速く比較的マシンとマッチしたサーキットだと思います。まずはフリー走行開始と共に私がドライブし、持ち込みセットの確認を行います。走り始めから徐々にペースをあげていき7周目にはフリー走行ベストとなる1'39.377というタイムで6番手につきます。その後はチームメイトの田中選手に交代し、セットアップを進めてもらいます。セッティングの方向性が見えて来たところで、藤田選手に交代しマシンの感触を確かめてもらいました。セッションも残り20分となったので、再び私に交代し予選のシミュレーションを行います。しかし路面温度や気温などコンディションの影響もあり、7周目に出したタイムを更新する事は出来ず、最終的に8番手でフリー走行を終える事となりました。



2014.05.03 QUALIFYING (11位/24台中)

WEATHER : DRY

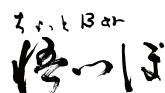
午後になり、いよいよ公式予選の時間を迎えました。まずは岡山同様私がQ1を走行するためマシンに乗り込み集中力を高めます。予選開始とともにコースインし、自分のペースでアタックしたかったのでクリアラップを作るべく積極的に前車をパスし、先頭でアタックを開始しました。タイヤ的にもいいコンディションである計測4周目には、フリー走行時のベストラップを上回るタイムを刻んでいたのですが、アタックしていないマシンにひっかかりタイムを上げることが出来ません。このままではQ1を通過するのが難しいため、一旦クールラップを挟み再度アタックをやり直します。その結果、何ヶ所か小さいミスはあったものの1'39.071というタイムを刻み11番手にポジションを上げることが出来ました。そしてこのまま残り時間もポジションを守ることが出来たので、まずはQ1を11番手で通過することが出来ました。



Q1を通過した13台でグリッドを争うQ2では藤田選手がアタックを行います。藤田選手は走り初めから周回を重ねることにタイムをあげていき、5周目には1'39.490というタイムで11番手につきます。最終的にそのまま順位をキープし、決勝レースは11番グリッドからスタートすることとなりました。



SPONSOR



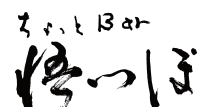


HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



SPONSOR



2014.05.04 RACE (決勝 16 位 / 24 台中) WEATHER : DRY

決勝日は朝から晴天で最高のレース日和でした。GWと重なっていることもあり観客動員数が2日間合計で8万9,400人。決勝日だけでも5万7200人を動員し、グランドスタンドは超満員の観客で溢れる中、レーススタート時間を迎えます。午後2時になり1周のウォームアップラップとフォーメーションラップを終え、シリーズでも2番目に長い500キロレースがスタートします。

今回も私がスタートドライバーを担当させて頂くことになったのですが、開幕戦の反省を活かし1コーナーはしっかりライン側をキープ、オープニングラップは11番手で通過します。2周目には1台にパスされ12位へとポジションを落としてしまいましたが、タイヤが温まってからは後ろを気にすることなく、前の車に仕掛けるよう隙を伺います。そんな中4周目に入った1コーナーで、私の直後を走っていたマシンが大クラッシュに見舞われたことにより、セーフティーカーが導入されます。ドライバーは無事でしたが大きなクラッシュだったためコース修復に時間を要しましたが、集中力を切らすことなく再スタートに備えます。

そして迎えた再スタートでは1コーナーで ARTA 5 5号車を、さらに周回を重ね SUBARU 6 1号車の BRZ をオーバーテイクし、10番手にポジションをあげます。しかし迎えた17周目、本日2回目のセーフティーカーが導入され、自分より前の9台の内5台がピットインします。私たちは燃費の関係もあり、コースに残る作戦を選び再スタートに備えます。再スタート直後に、JLOC 8 6号車を、30周を過ぎたところで30号車の GT-R をパスし3位へポジションをあげます。チームが用意してくれたマシンは、周回を重ねても周りのマシンに比べタイムの落ち幅も少なく安定したタイムで周回を続けることが出来ました。そして約40周を周回したところで藤田選手に、残り20周で田中選手にマシンを託し、チェッカーを目指してもらいます。ピットタイミングや給油時間の関係もあり、うまくポジションを上げることは出来ませんでした。長丁場の荒れたレースを16位でゴールすることが出来ました。

決して満足のいく結果ではありませんが、開幕戦からの課題であったスタート直後のポジション取りやスティント後半のマシンバランスなど、チーム全体としても前進していることは実感しています。まだまだ上を向いて努力しなければいけません。焦ることなく一歩一歩前進していきたいです。次戦はチームの地元でもある九州オートポリスです。このレースは田中選手と藤田選手の2人に走って貰いますが、ベストリザルトを残せるようにチームのサポートに徹したいと思います。それでは今後ともご指導、ご支援よろしくお願致します。

 吉田 広樹

